

第1章 パソコン入門編

1. はじめに	1
2. パソコンの基本構成	2
3. フロッピーディスクの基礎知識	6
(1)フロッピーディスクの種類	7
(2)フロッピーディスクの構造と名称	8
(3)フロッピーディスクの取り扱いと注意事項	9
4. パソコン本体のスイッチ類とディスクドライブの名称	11
5. システムの立ち上げ（起動）	12
6. キーボード基本編	14
(1)キーボードの外観と各部の名称	14
(2)キーボードからの入力	17
①入力される文字や記号の切り替え方法	18
②空白の入力	18
③かな文字入力時の濁点や半濁点の入力	19
(3)その他のキーの基本的な役目	19
(4)入力した文字の挿入・削除・訂正	20

第1章 パソコン入門編

1. はじめに

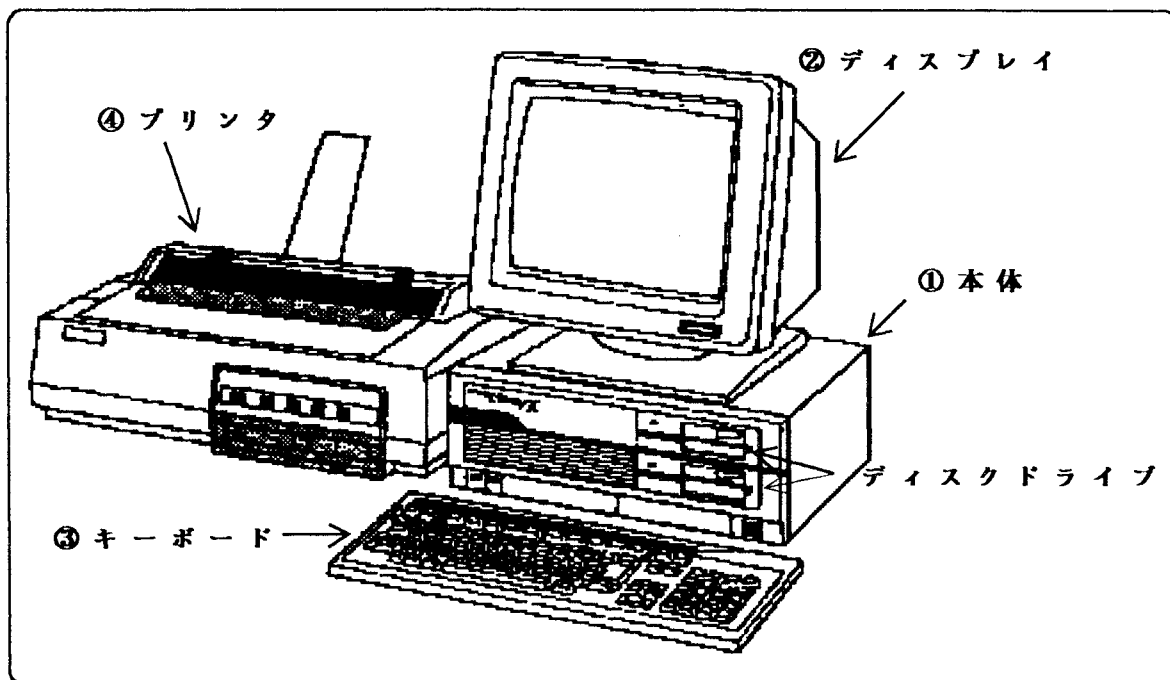
このテキストは、表計算 Lotus 1-2-3 を受講される方でパソコンにあまりなじみの無い方のためにパソコン入門用として作成されたものです。

従って、パソコンの基本構成や機器の名称、キーボードの基本操作、フロッピーディスクの扱い方、日本語入力等、表計算ソフトをパソコン上で操作する時に必要となる基礎知識について述べてあります。Lotus 1-2-3 の基本教材に載っていない基本的な事柄については、この資料を利用し参考にして下さい。

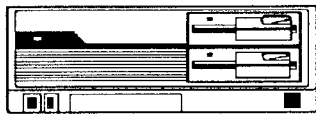
2. パソコンの基本構成

パソコンは通常つぎの4つで構成されています。

- ① パソコン本体（フロッピーディスクドライブユニット内臓）
- ② ディスプレイ
- ③ キーボード
- ④ プリンタ



パソコン本体 …… 人間で言えば判断、思考、記憶などをする頭脳に相当します。一連の処理を担当する核となる部分をCPUといい、これがパソコンの頭脳に当たります。また、記憶を担当する部分をメモリといい、外部から与えられる情報や指令はいったんここに記憶され、CPUによって利用されます。



よく8、16、32ビットとか耳にしますが、このCPUの処理能力のことを表し、ビット数の大きいほど処理能力の高いパソコンということが出来ます。処理能力が高いというのは例えば、計算速度が速いとか、画像を高速に表示することができることなどを指します。現在最も普及しているパソコンは16ビットですが、最近では高性能の32ビットが主流になりつつあります。

キーボード ……

人間の目や耳に相当します。

本体に対し、人間が文字や数字などを伝達するための装置。通常本体を購入すると付属品としてついてきます。

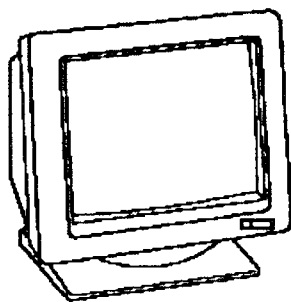


文字の配列によりJIS配列、新JIS配列、親指シフトなどのタイプがあり、それぞれカナ文字やアルファベット文字の配列が異なります。パソコン用には通常JIS配列が普及しています。

ディスプレイ ……

人間の口や手に相当します。

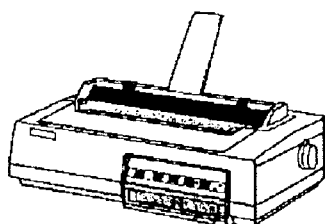
キーボードから本体に伝えられた情報や本体の中で計算された結果等をテレビ画面に表示することによって人間に伝達する役目を持ちます。通常家庭用テレビよりも非常に細かい映像を再現でき、ワープロなどの漢字なども鮮明に見ることができます。



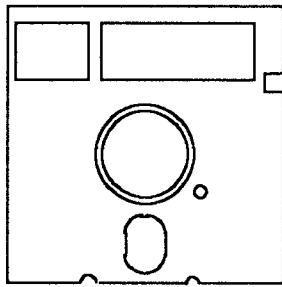
他に呼び方として、CRT、モニターなどがあります。

プリンタ ……

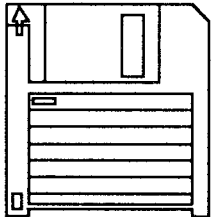
ディスプレイ装置と同様に、人間の口や手に相当します。この場合、画面に表示するのではなくて紙の上に印刷し、情報を活字として人間に伝える役目をします。



- ⑤ フロッピー ディスク …… 再利用するデータを記憶するノートやメモに相当します。メモリは本体の電源を切ると記憶しているものが消えてしまうのに対して、フロッピーディスクはちょうどビデオテープのように磁気力を借りて記憶しておきます。記憶容量、サイズによって種類があります。通常 Lotus 1-2-3 の様な市販ソフトはフロッピーディスクに記録されて販売されます。（市販のビデオソフトのイメージ）



[5インチフロッピーディスク]



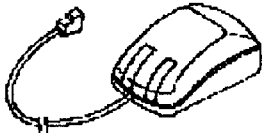
[3.5インチフロッピーディスク]

本体内蔵のフロッピーディスクドライブとは、フロッピーディスクに記録されているデータをパソコン本体のメモリに読み込む為の装置で、ビデオテープを再生して画像を再生するビデオデッキと同じような働きをします。

⑥ その他の周辺装置

以上がパソコンを使用するための基本的な装置の構成ですが、最近では市販ソフトが非常に高機能になり、以下にあげる周辺装置がないと使用できなかつたりせつかくの機能が十分に発揮できない状況になってきています。

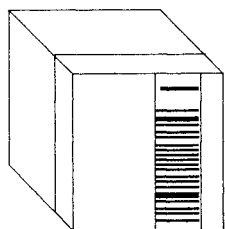
マウス ……



キーボードと同じように人間がパソコン本体に情報を伝える割をしますが、文字や数字を打ち込むのではなく、画面に表されている矢印を動かして、メニュー選択などを指示することで情報を伝えます。従って、キーボードがあまり使えない人もマウスが使えるソフトであれば短時間で使えるようになります。その他というよりは標準的な装置と考えた方がよく、通常付けておかないと使えないソフトも多くあります。例えば図形を対象としたソフトはマウスがないと使用できないと考えたがよいでしょう。

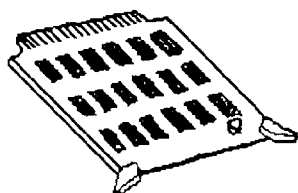
Lotus 1-2-3 はキーボードとともにマウスも補助的に使えるようになっていきます。

ハード
ディスク



そろえておいた方がよい装置の1つがハードディスクです。ハードディスクは記憶装置の一つで記憶容量は例えば40MBのハードディスクなら最も一般的に使用されている2HDタイプのフロッピーディスクの40枚分の容量があります。最近の市販ソフトはこのハードディスクを使用する事を前提として作られているものが多く、必需品となりつつあります。最近では、技術のめざましい進歩で大容量のものが安い値段で提供されており、手に入りやすくなっています。

R A M ボード 本体のメモリを増やすためのボードです。パソコン本体内部に差し込んで使います。これがあるとデータ処理が速くなったり、大量のデータを扱えるようになります。



最近では、ある種のRAMボードとハードディスクをそろえておかないと実用的には非常に使いづらい市販ソフトが多くなってきています。

種類は用途や容量によって何種類かありますが、一般的に使われている容量としては2メガ、4メガと呼ばれているものです。

3. フロッピーディスクの基礎知識

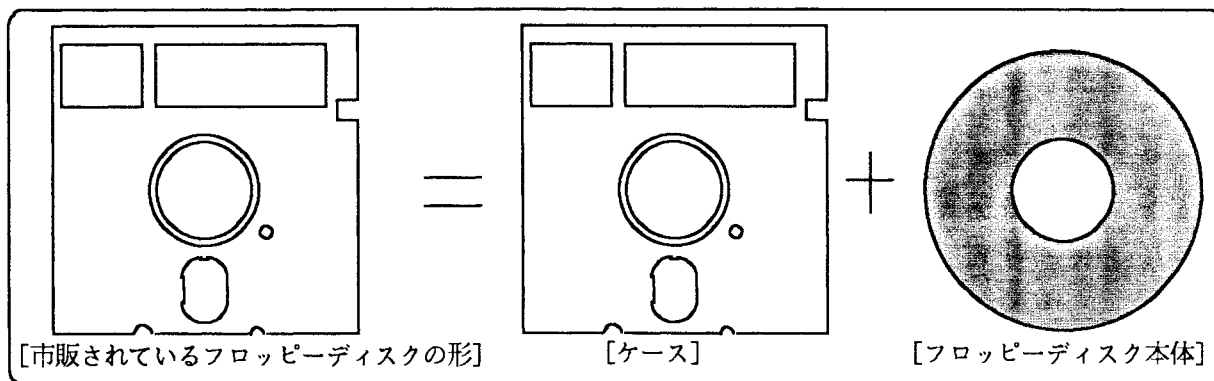
すでに説明したようにフロッピーディスクは、文字などのデータを保存するメモ用紙やノートに相当するものです。本体内部のメモリでは、データは電源を切ると全て消えてしまうので本体内部以外に記憶させることができるようにするために作られたものです。通常、パソコン本体や周辺装置はよほど乱暴な取扱いをしない限り壊れるという事はありませんが（ようは機械であるため）、パソコンを使って作りだしたデータを記録するフロッピーディスクはちょっとした不注意で容易に破壊されます。これは、フロッピーディスクが物理的に壊れると言うよりは磁気により記録されているデータが破壊されるという事になります。従って、パソコンやワープロを使用していて最も注意をしなければならないのはフロッピーディスクの取扱いであるといわれます。例え何日、何週間かけて作成した文章や集計表であっても不注意な取扱いをするとそれが瞬時に水の泡となってしまいます。

ここでは、フロッピーディスクの基本的な構造や原理、種類、取扱いといった基本的な事項について説明し、フロッピーディスクに対するイメージを持っていただきます。

フロッピーディスクはビデオやオーディオカセットテープと同じように磁気の利用したもので記録／再生ができます。円盤上のシートの表面に特殊な加工をして、磁気によりデータを記録できるようにしたものです。

フロッピーディスクのことをディスクット、フレキシブルディスクなどともいいます。「フロッピー」とは「ペラペラ」という意味で、「ディスク」とは「円盤」の事ですから名前のおり薄くて軽い「ペラペラの円盤」のようなものです。キズやホコリがつきやすいので、保護のために塩化ビニール製の四角いジャケットに入っています。

フロッピーディスクは取り扱いに注意しなければならないことがいくつかあります。カセットテープなどと同じように磁気によってデータなどを記憶していますが、カセットテープとは違ってちょっとでもキズがついてしまうと、先ほども出てきたようにディスクに記憶してあるデータ全部が使えなくなってしまう。



(1) フロッピーディスクの種類

● 大きさによるもの

フロッピーディスクの直径で8インチ、5インチ、3.5インチの3種類があります。

8インチ …… 標準、スタンダードフロッピーといわれ、主に大型のコンピュータを中心に使用されます。最近ではパソコンで使われる事はあまりありません。

5インチ …… ミニフロッピーディスク
取扱注意、据置パソコン用の大半はこのタイプです。

3.5インチ …… マイクロフロッピーディスク
取り扱い容易
ノートパソコンや専用ワープロなどによく使われます。

同じサイズのフロッピーディスクでも記憶容量が違います。これは、同じケースに入ったビデオテープでも60分や120分と言った違いがあるのと似ています。

記憶容量とは、文書や情報をどれだけ記憶できるかを表す単位で、コンピュータでは、バイトという単位で表します。もっとわかりやすく言いますと、2バイトあればワープロなどの漢字1文字を記憶できます。アルファベットなどの小さな文字は1バイトで記憶できます。

● 記憶容量による

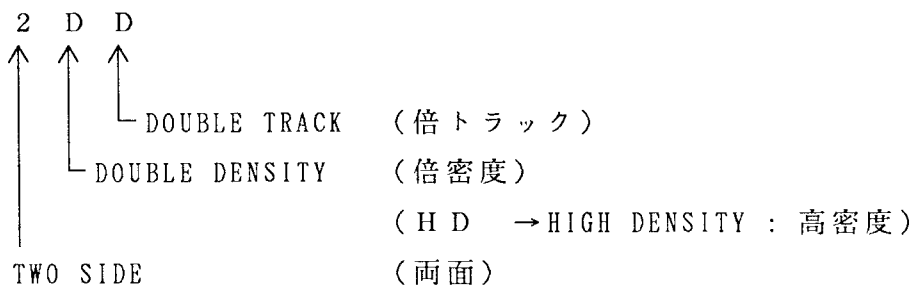
一般的によく使われているものとして、

2DDタイプ …… 640キロバイト (KB)
(400字詰原稿用紙で1600枚くらい)

2HDタイプ …… 1.2メガバイト (1200キロバイト)
(400字詰原稿用紙で3000枚くらい)

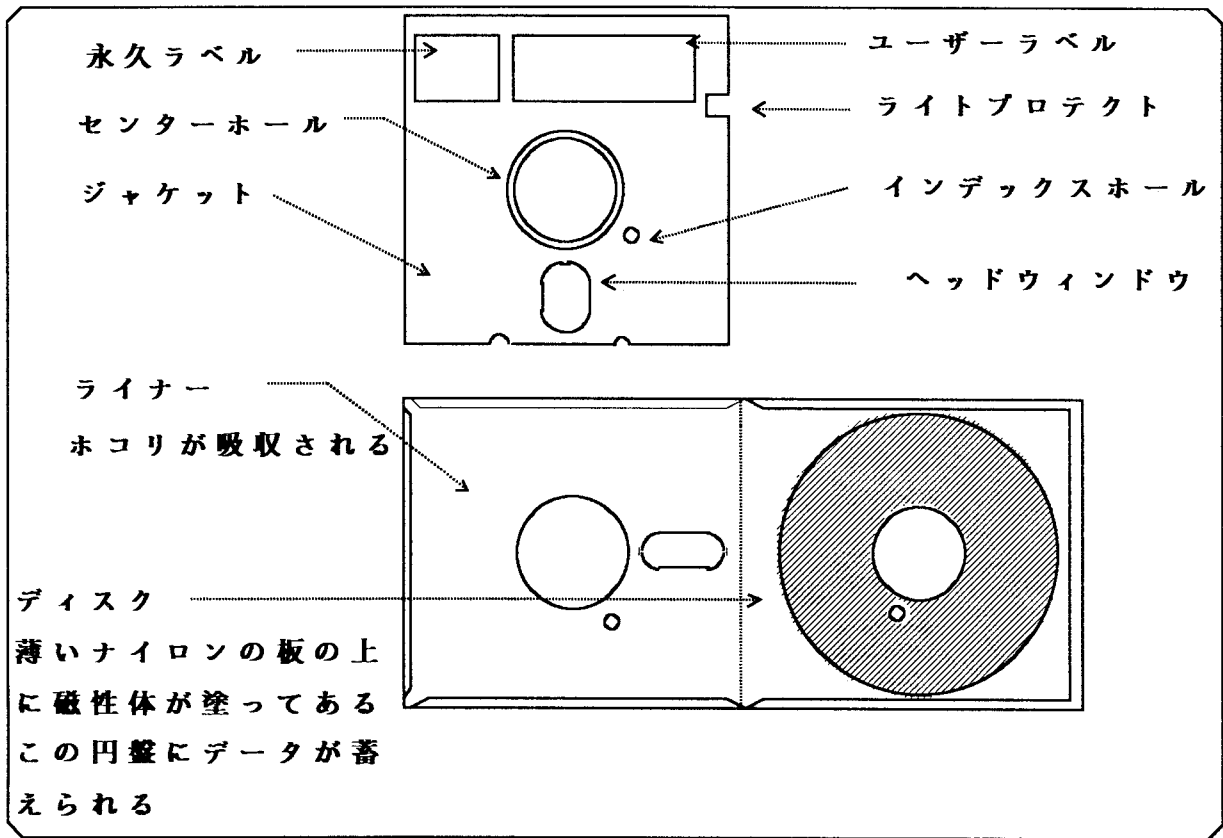
※ 記憶密度

同じサイズのディスクでも2DDタイプと2HDタイプがあります。

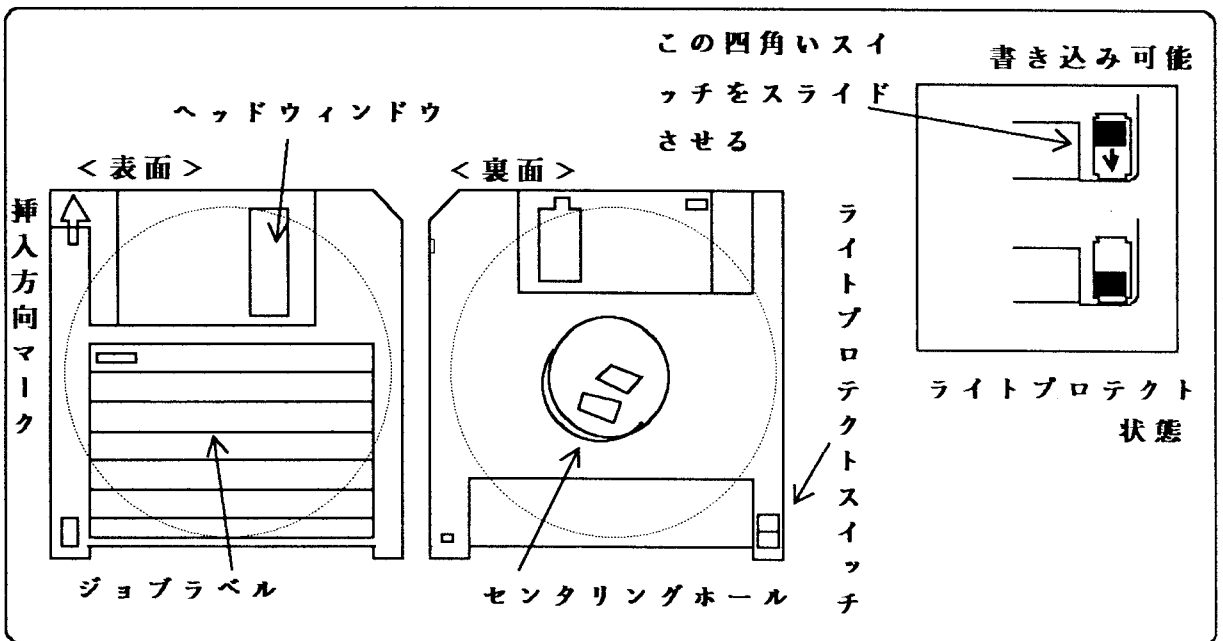


(2) フロッピーディスクの構造と名称

5 インチフロッピーディスク



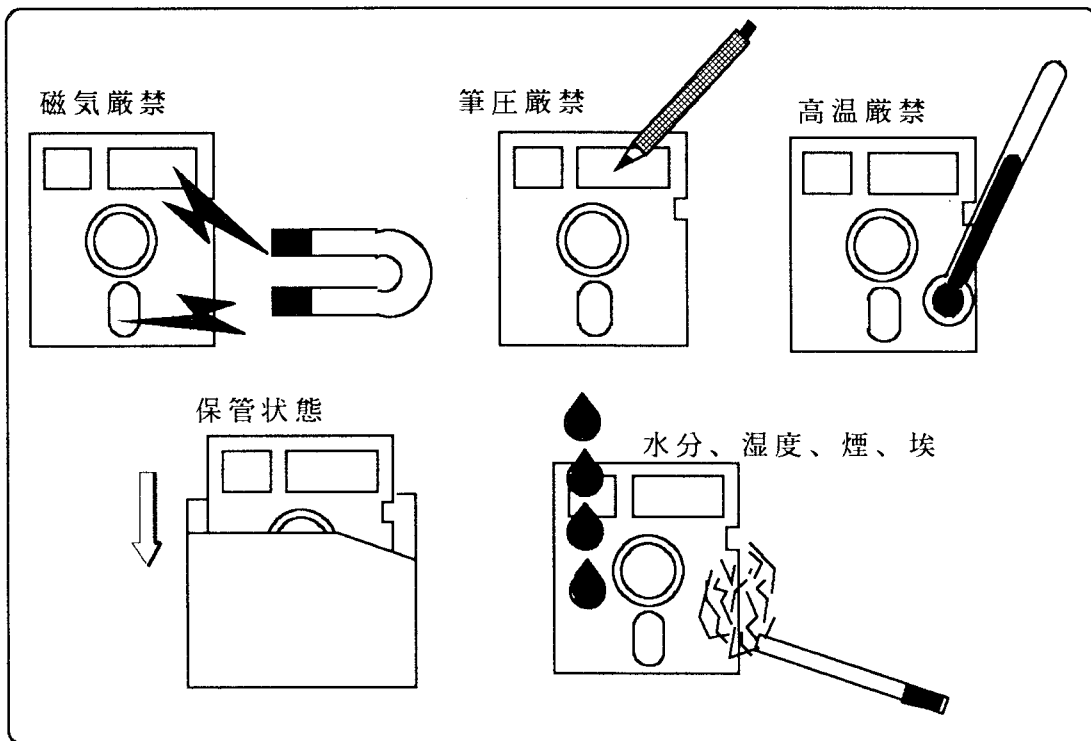
3. 5 インチフロッピーディスク

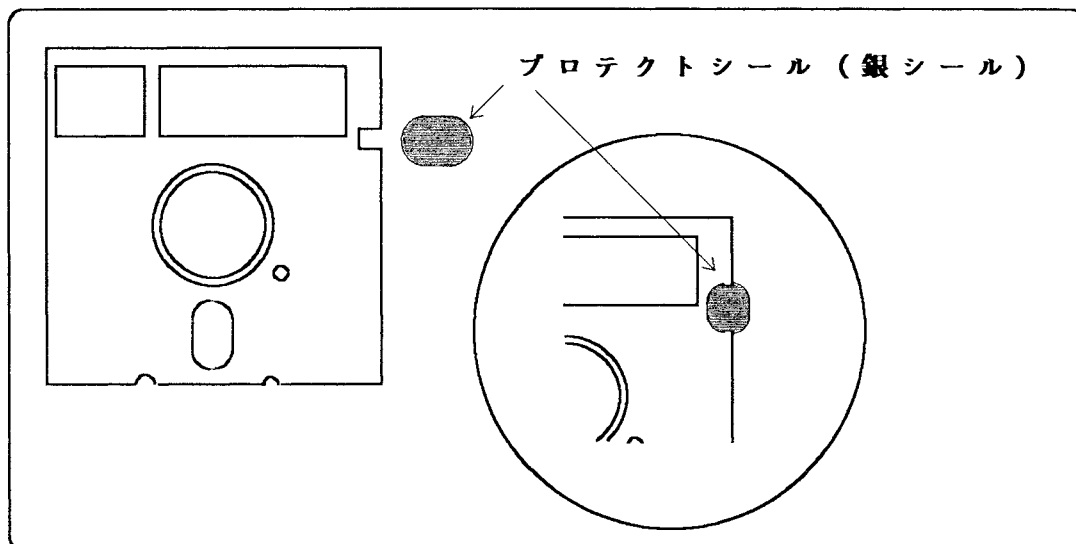


(3) フロッピーディスクの取り扱いと注意事項

フロッピーディスク（特に5インチタイプ）は取り扱い上、注意しなければならないことがたくさんあります。ちょっとした不注意でフロッピー内のシステムファイル（市販ソフトの本体）や文書などのデータが使えなくなってしまうます。フロッピーディスクに関する正しい知識と取り扱い方を知っておかなければ、何の為に苦勞してパソコンでデータ処理をしたのかわからなくなるなんて事になりかねません。つぎのことに注意して下さい。

- ① 磁気を帯びたものを近づけない。
- ② ラベル記入は貼る前に（貼ってからの場合はフェルトペンで）。
- ③ 折り曲げない、クリップではさまない。
- ④ 熱や直射日光にさらさない（4～52℃）
- ⑤ 保管は1枚ずつエンベロープ（保護袋）に入れて垂直に立てておく。
- ⑥ 10枚以上は積み重ねない。
- ⑦ 水、ホコリ、タバコの煙にさらさない。
- ⑧ 磁性面に手を触れたり、拭いたりしない。
- ⑨ 持つときは、ラベルのところを
- ⑩ 電源を入れてから、差し込む。
- ⑪ 誤ってデータを消さないためにプロテクトシールを貼っておく。





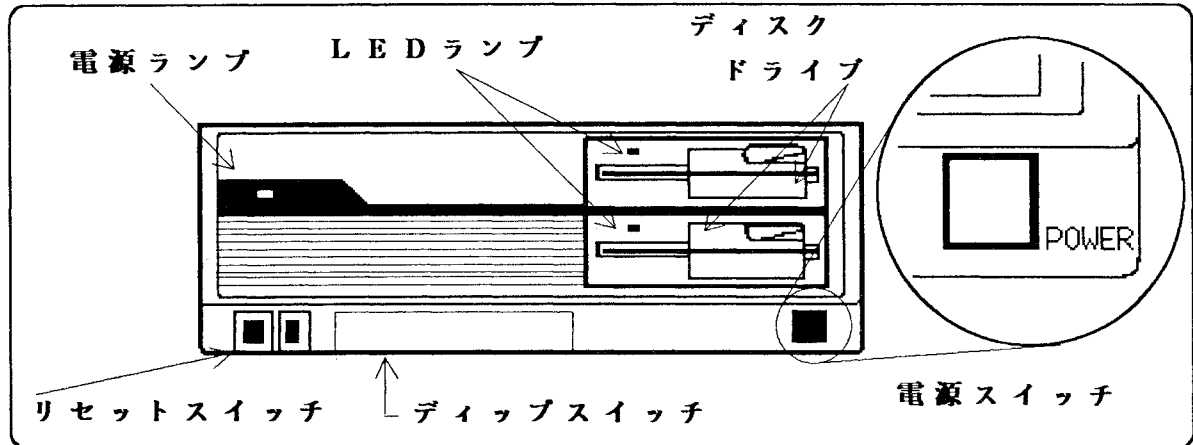
プロテクトシールをライトプロテクトの位置に貼ると、ディスクへの書き込み禁止になり、大切なデータを誤って消すことを防ぐことができます。3.5インチの場合はプロテクトシールではなくスライドスイッチの様なもの付いていてそれをスライドさせます。

ビデオカセットなどでツメを折ると、録画できないのと同じで、オリジナルディスクやマザーディスクなどにはフロッピーディスクにプロテクトシールを貼ってからコピー作業などをするようにします。

4. パソコン本体のスイッチ類とディスクドライブの名称

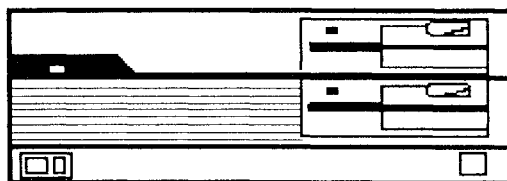
市販のソフトを使用するためには、パソコンに読み込ませて使用可能状態にする必要があります。これを通常システムの立ち上げといいます。これを行う前にパソコン本体付いているスイッチやランプの知識が必要となります。

つぎは簡単にパソコン前面のスイッチやランプの名称や役割について説明します。



電源スイッチ	: パソコン本体の電源のオン／オフを行います。深く押し込みます。
電源ランプ	: パソコン本体の電源がオンの時に点灯します。
リセットスイッチ	: 立ち上げに失敗したときなどに電源を切らずに最初から行いたいときなどに押します。ただし、押した後は全ての記憶は失われます。ソフト使用中には絶対に押ししては行けません。
ディスクドライブ	: フロッピーディスクを挿入します。通常市販ソフトが入っているディスクは上のドライブに挿入します。
LEDランプ (アクセスランプ)	: パソコンがフロッピーディスクとデータのやり取りをしている間点滅します。これが点滅しているときにディスクの抜き差しを行うとディスクや本体が壊れる恐れがあります
ディップスイッチ	: パソコンの色々な状態を決定します。必要に応じてオン／オフさせます。

通常ディスクドライブは右のような名称で呼ばれています。



..... 1 ⇨ Aドライブ
..... 2 ⇨ Bドライブ

5. システムの立ち上げ（起動）

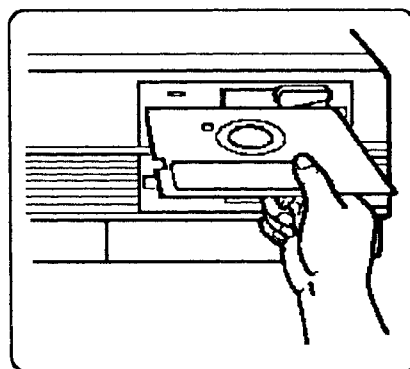
Lotus 1-2-3のシステムディスクを使ってパソコンを使えるようにします。パソコンも電化製品ですので、電源をONにすることから始まります。電源の位置は以前に示したとおりです。

つぎに電源投入からシステムの立ち上げの手順を示しますので、指示にしたがって操作してください。

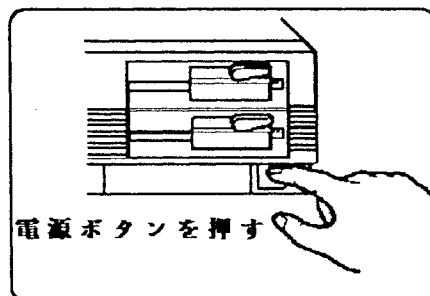
〈 手 順 〉

- ① パソコン本体の前面にある”1”とかかれた溝（Aドライブ）にLotus 1-2-3のシステムディスクをラベルが上になるように、ラベルが少し隠れる程度に、方向を間違えずに、差し込みます。
（全部挿入しません。）

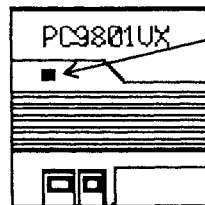
※ラベルのところを持ち、水平にやさしく挿入します。



- ② パソコン本体の電源ボタンを押し込みます。電源ONの状態にします。
※通常はディスプレイの電源も入れるのですが、ここでは、パソコン本体の電源と連動させているので、ディスプレイの電源はいつもにONにしてあります。



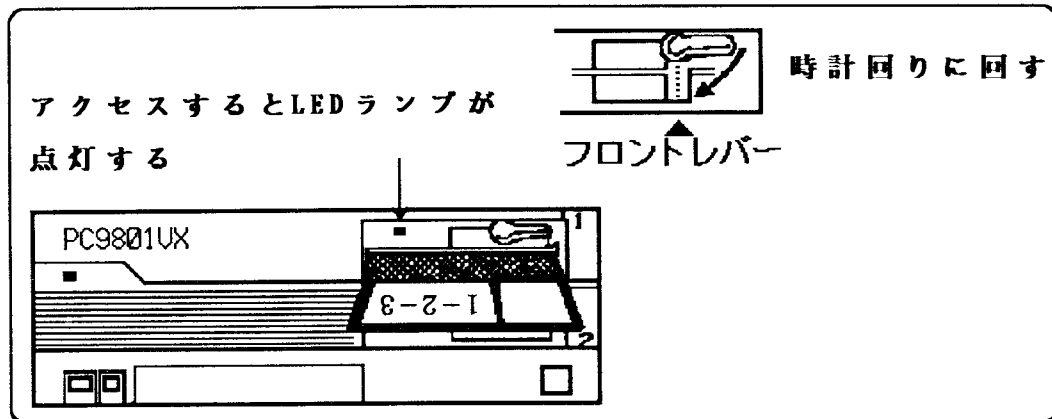
電源ONで、ランプが点灯する。



次ページへ

- ③ フロッピーディスクがほとんど隠れる程度に挿入します。
わずかにカチッと音がして止まります。それ以上は絶対に押し込まないで下さい。次に、溝（ドライブ）の右上についているノブを時計回りに回してカチッと音がするまで回し固定します。

フロッピーディスクを完全に差し込み、ロックが完了して、しばらくするとアクセスランプが点滅し、パソコン本体に読み込みを始めます。
やがて、Lotus 1-2-3のメニュー画面が表示されます。



※もし、画面にHow many files (0-15)? のメッセージが表示されたら、リセットボタンを押して下さい。

(電源投入して、フロントノブを閉じるのが遅いと立ち上げに失敗し、この様な表示になります。)

6. キーボード基本編

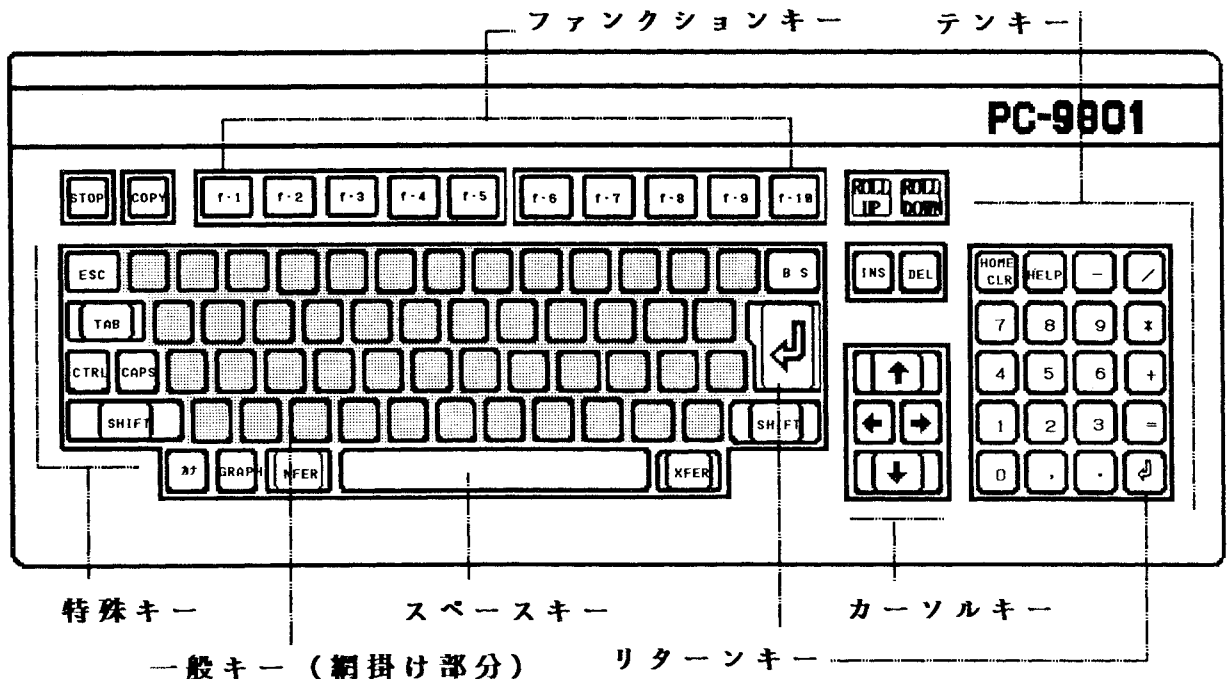
パソコン操作で最も重要で、かつなかなかなじめないのがキーボード操作とされています。この理由には、今の所まだまだキーボードが使用する人間の意志をパソコンに伝えるための最も合理的な装置である事と、キーボード上に配置されているキー類があまりにも多いためその使い方や配置を憶えることがすぐにはできないことがあげられます。しかし、キーボードをある程度マスターしなければワープロや表計算ソフトを使ってパソコンで仕事をするレベルまでになることはできません。

キーボード上のキーに書かれている文字や数字、記号などは、何の規則も無しに配置されているわけではありません。一定の規則に従って記入されています。

また、それ以外のキーの役割も使用するソフトによって極端に異なる事はそれほど多くはありません。従って、これらの基本となる規則や役割などをおさえておけばキー自体の配置は、慣れて憶えなければならぬにしても後はそれほど難解なものではありません。ここでは、文字や数字、記号がJISの規格に従って配置されているJISキーボードについてキーボードの基本を説明していきます。

(1) キーボードの外観と各部の名称

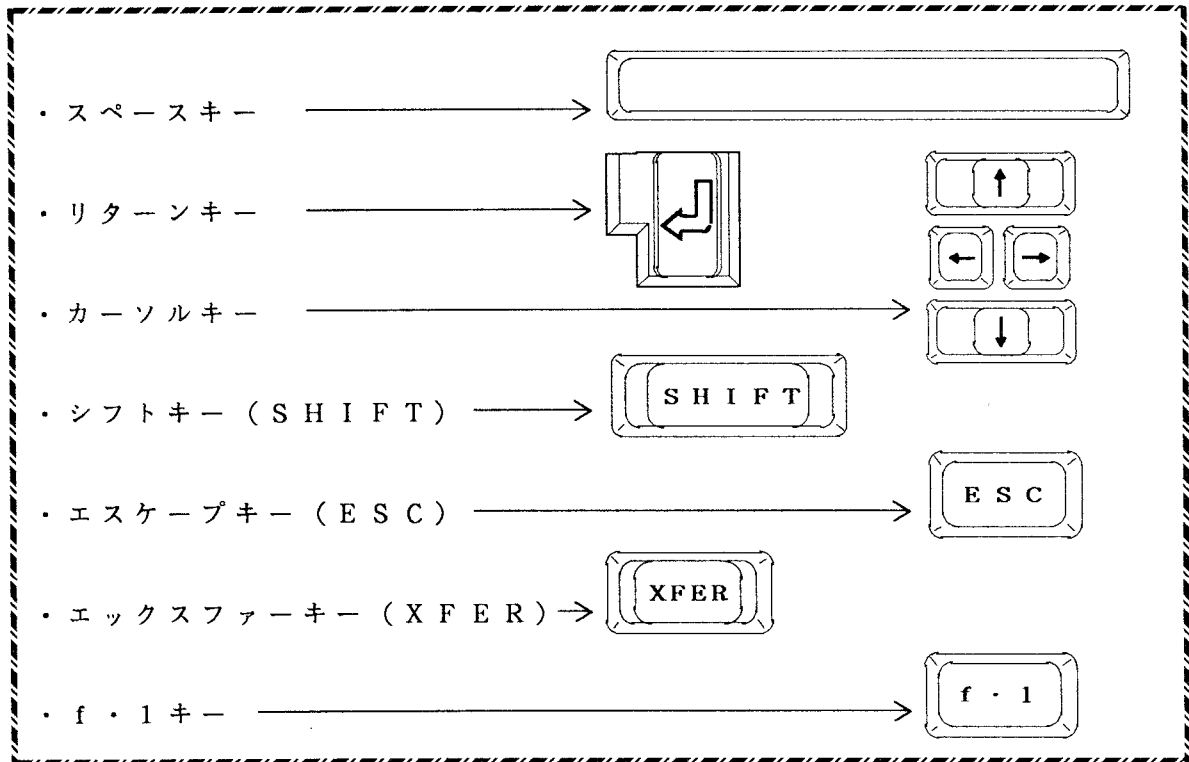
PC-9801シリーズのキーボードです。機種によっては、下の図と異なるものもありますが網掛け部分の一般キーと呼ばれる部分はJISに従った配列の部分で機種が異なっても変わる事はありません。それ以外の部分のキー配置は機種によって若干の差があります。キーボード上のキーはその役割によっていくつかのブロックに分ける事ができます。下の図は、ブロックごとの名称や主なキーの名称を示しています。



それぞれの働きで大きく分けるとつぎのようになります。

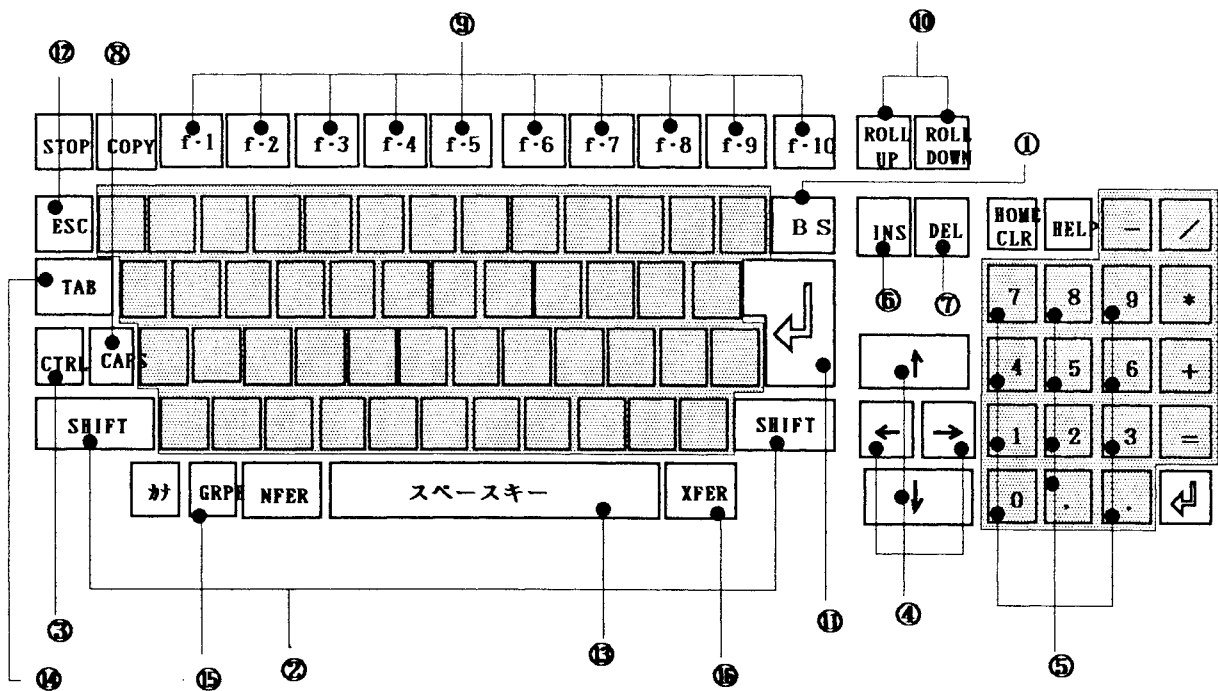
- ◆文字や数字を入力するためのキー（一般キー、網掛け部分）
- ◆特殊な役目をするキー
- ◆色々な動作を制御するためのキー

ここで、特にその場所を知っておいてほしいキーは、



などです。Lotus 1-2-3では、以上のキーはよく使いますから、わからなくなったらここを見直しましょう。

次にキーボード上のそれぞれのキーの配置と名称を示します。

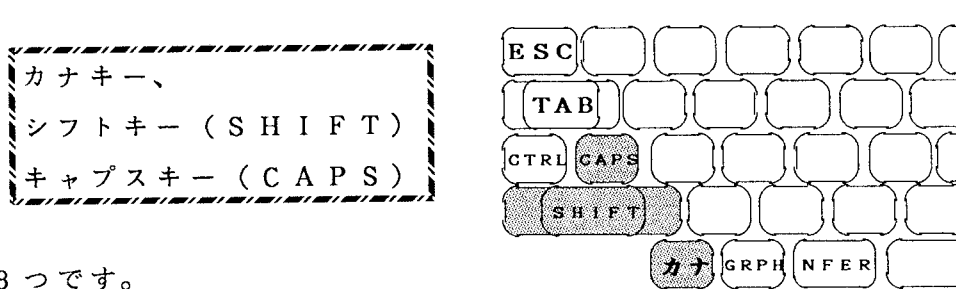


- ① B S (バックスペースキー)
- ② S H I F T (シフトキー)
- ③ C T R L (コントロールキー)
- ④カーソルキー (矢印キー)
- ⑤ テンキー
- ⑥ I N S (インサートキー)
- ⑦ D E L (デリートキー)
- ⑧ C A P S (キャプスキー)
- ⑨ ファンクションキー
- ⑩ ロールアップ、ロールダウンキー
- ⑪ リターンキー
- ⑫ E S C (エスケープ)
- ⑬ スペースキー
- ⑭ T A B (タブキー)
- ⑮ G R P H (グラフキー)
- ⑯ X F E R

(2) キーボードからの入力

キーボードのキーをたたいて文字や数字をパソコンに伝える事を入力するといいます。キーボード上にはたくさんのキーがありますから、希望する文字や、記号を入力するにはどうすれば良いでしょうか。ここでは、キー入力の基本的な事項について説明していきます。

文字キー（一般キー）には、上下左右に最高4つの文字が記されています。これは他のキーとの組合せにより、1つのキーで4つの文字や記号を入力することができるのです。他のキーとは、

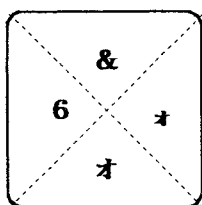


の3つです。

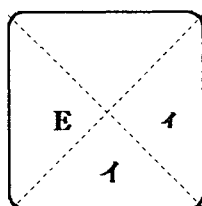
カナキーとキャプスキーは、それぞれをロック（押し込んだ状態）、ロックしない（解除の状態）で、入力できる文字などが変わります。ロックとは押し込んだ後指を離しても元の状態には戻らず、押し込まれたままの状態になる事です。機種によっては、ロックしても押し込まれた状態にはならず、キーボード上にロックした事を示すランプが点灯するものもあります。

シフトキーは、指で押している間だけ働き指を離すと元の状態に戻りロックされません。従って、シフトキーの場合はシフトキーを押しながら、他のキーを押すというふうに両手を使わなければなりません。

①入力される文字や記号の切り替え方法



	SHIFT		
カナ		押しながら	押さない
ロックする		お	お
ロックしない		&	6



	SHIFT		
CAPS		押しながら	押さない
ロックする		e	E
ロックしない		E	e

※カナキーは解除の状態

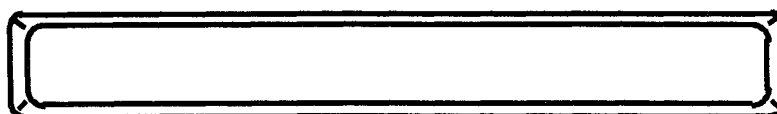
まとめると、カナキーを押した状態ではかなが、解除の状態では、英数文字及び記号が入力されます。CAPSキーとSHIFTキーの組合せは大文字小文字が逆になります。

②空白の入力

以上の方法は、具体的な文字や記号を入力する場合の話です。しかし、入力には空白を入力しなければならないときが多くあります。空白の入力とは、具体的には文字と文字の間を空けたり、特定の文字を右方向へずらしたりする作業の事です。

年月日 —————> 年 月 日

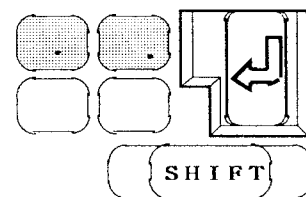
この作業には、スペースキーを使います。このキーはキーボードのいちばん手前にある何も書いていないいちばん長いキーです。



[スペースキー]

③かな文字入力時の濁点や半濁点の入力

カナキーをロックすると、カナ文字の入力になりますが、この時バビブベボやパピプペポなどの濁点や半濁点を持つ文字は文字とは別に濁点キー、半濁点キーを続けて押す必要があります。これらのキーの位置を示します。



(3) その他のキーの基本的な役目

BS (バックスペースキー)	: カーソルの左側の文字を1文字ずつ削除
カーソルキー (矢印キー)	: カーソルを上下左右に移動
テンキー	: 数字を入力
INS (インサートキー)	: 文字と文字の間に挿入できる状態にする
DEL (デリートキー)	: カーソル上の1文字を削除
ファンクションキー	: ソフトによって機能が異なる
ロールアップ、ロールダウンキー	: 1画面ずつ表示を上下方向に移動
リターンキー	: 1行改行やパソコンに対する指示決定
ESC (エスケープ)	: 作業の取消などを行う場合が多い
TAB (タブキー)	: 複数文字分の空白を空ける
GRAPH (グラフキー)	: ソフトによって異なる
XFER	: 主に入力した文字列を漢字に変換
CTRL (コントロールキー)	: ソフトによって異なる特殊なキー

(4)入力した文字の挿入・削除・訂正

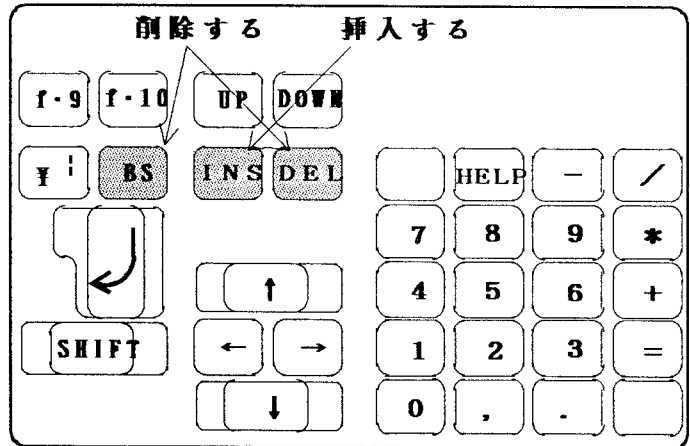
削除、挿入に使用するキー

○削除に使用するキー

DEL キー (デリート)
BS キー (バックスペース)

○挿入に使用するキー

INS キー (インサート)



☆文字を削除するには2つの方法があります。

○ DEL (デリートキー) を使う

削除したい文字にカーソルをあわせてDELを押します。
 カーソルの位置にある文字が削除されます。

A **B** C D E → **DEL** → A **C** D E → **DEL** → A **D** E

○ BS (バックスペースキー) を使う

削除したい文字の後ろにカーソルを合わせてBSキーを押します。
 カーソルのある左側の文字を削除します。

A B C **D** E → **BS** → A B **D** E → **BS** → A **D** E

※BSキーやDELキーを押し続けると、連続して削除されます。

☆文字の挿入

文字の挿入にはINS (インサートキー) を使います。

挿入は、削除と違ってこのキーを押しても画面上では何も起こりません。

挿入できる状態かそうでない状態かを切り換えるだけです。従って、それぞれのソフトウェアで挿入状態であるか、上書き状態であるか識別できるよう何か印が画面上に表示されるのが普通です。INSを押すたびに挿入、上書きが切り換わります

Lotus 1-2-3 の場合は、

挿入状態の時の表示 **無表示** A **B** C D → X 入力 → A X **B** C D

上書き状態の時の表示 → **重書** A **B** C D → X 入力 → A X **C** D

となります。